第1講　人間社会を認識するモデル

外交官の命は言葉である … 1／人間という生き物をどう認識するか … 3／人間の作る社会をどう認識するか … 6／実体社会の変動と表象世界の変化 … 9／発言する勇気、行動する勇気 … 10／権力と社会変動―民主主義と穏やかな経験主義の大切さ … 13／思想の急進化とは何か … 17／国際社会をどう認識するか … 20／人類に共通の意味空間は可能か … 23／第1講と後続講義との関係 … 28

第2講　国家戦略とは何か

国家戦略とは何だろうか … 30／安全保障とは何か―外交と軍事の相関 … 33／外交と軍事の結合のための制度的保障 … 36／国家戦略の階層構造 … 37／日本に国家安全保障はあるか … 39／なぜ、日本に国家戦略が存在しないのか … 41／国家と軍隊からの逃避と自己乖離 … 43／屈折した対米感情―「逆コース」と再軍備 … 46／高度経済成長と新しいナショナリズム … 49／安全保障論議における幻想 … 50／安全保障論議における禁忌 … 54／20世紀の幻想主義（fantasy）から21世紀の現実主義（realism）へ … 55

第3講　国家の安全とは何か

戦略的思考とは、合理的思考のことである … 60／「兵（安全）」「食（繁栄）」「信（倫理・価値観）」が最高の国益である … 60／物理的に国を守るとはどういうことか … 62／日本をどうやって攻めるか … 66／核攻撃されれば日本は滅びる … 66／日本は海と空を取られたら必ず負ける … 67／大陸勢力の渡海と侵入経路 … 70／歴史的に見た日本周辺地域（1）—朝鮮半島と樺太島 … 71／帝政ロシアの南下と北方の守り … 73／冷戦期におけるソ連の脅威と北海道 … 76／歴史的に見た日本周辺地域（2）—台湾島をどう見ればよいか … 76／現代日本にとっての台湾の戦略的価値 … 79／国際的な権力関係の安定—外交の要諦 … 79／権力均衡論は、国際関係を不安定化させるか … 81／日本に影響を与えた権力均衡の変化とはどういうものか … 82／明治維新の頃の欧州大陸 … 83／日露戦争と英露関係 … 85／日本と第1次世界大戦 … 86／戦間期における日本の戦略性喪失 … 87／二つの致命的な失敗—バルバロッサ作戦と真珠湾攻撃 … 88／戦後の戦略環境と日本の選択 … 89／外交における原状回復（status quo ante）の法則 … 90／地球的規模の権力均衡に目を開く時 … 91

第4講　いかにして繁栄するか

産業国家が近代国際政治の主役である … 92／海洋国家の利点とシーレーンやメガ・ポートの重要性 … 94／新興国市場の登場と自由貿易 … 96／自由な交換行為の倫理性 … 97／エネルギー資源の偏在と資源ナショナリズム … 99／政治的に不安定な中東地域 … 100／石油備蓄、

エネルギー資源および輸入元多角化の戦略性 … 102／投機マネーによるエネルギー価格の高騰 … 102／国際エネルギー市場の安定こそ日本の国益 … 103／原子力の平和利用と核不拡散の努力 … 104／減りはじめた日本の人口 … 107／産業空洞化への対処 … 109／日本は破綻するか … 112／気候変動問題への対応 … 114

第5講　価値観を守るとはどういうことか

価値観のない国家などあり得ない … 116／なぜ、価値観を守るのか … 116／価値観の抹殺も「ジェノサイド」である … 117／「兵」よりも、「食」よりも「民の信」… 118／「7つの衰なき法」… 119／国家の掲げる価値観は、政治力に直結する … 119／東アジア史における力と道徳の関係 … 120／日本の国際政治論における倫理の欠落 … 121／弱肉強食だった帝国主義時代の経験 … 122／戦後日本における「国家からの逃避」… 125／価値観を守るとは、突き詰めれば「命」を守ることである … 126／神格化の誤謬 … 128／統合の象徴としての指導者 … 129／統合の象徴としての理念 … 130／思想の急進化とその危険 … 130／自らの良心の声を聞くには、どうすればよいのか … 131／古典や仏典を読むに際しての注意 … 133

第6講　日本の価値観とは何か

日本人の自然な道徳感情とはどのようなものか—万葉集と源氏物語 … 138／日本の伝統的価値観とは何か（1）—仏教の受容 … 141／日本の伝統的価値観とは何か（2）—儒教の受容 … 146／江戸期儒学が準備した近代日本と民主主義 … 150／明治以降流入した西欧近代政治思想をどう見るか … 153／啓蒙思想の二つの機能—「国民」と「市民」の誕生 … 154／啓蒙思想を日本の思想に統合することは可能か … 156／

日本の近代化経験から抽出する、人類に普遍的な倫理基盤 … 157 ／社会あるところに法あり―「天」の思想と「法の支配」… 159 ／「仏道」や「天」の地理的、人種的、宗教的限界 … 162 ／人間を大切にする―「愛民」と「人間の尊厳」… 165 ／西欧思想がもたらしたもの―「抵抗者の視点」と「市民の誕生」… 167 ／民主主義制度―「穏健な経験主義」の制度化 … 169 ／国際社会における暴力の規制―「平和」「義戦」「集団安全保障」… 172 ／勤労は報われるという原則と自由な交換―「勤労」と「市での商い」… 176 ／日本はどこで間違えたのか … 178 ／新しい日本の価値観と新しい日本の自画像 … 181 ／世界史に対する日本の使命 … 186

第Ⅱ部　国際情勢を戦略的に読む

第７講　国際戦略情勢概観（１）
地球的規模の権力関係はどうなっているか

３つのレベルから地球的規模の国際関係を見る … 190 ／自分の「重さ」と「軽さ」を知る … 191 ／軍事力をどう比較するか … 192 ／核兵器をどう考えるか … 192 ／相互確証破壊と核の安定 … 194 ／第二撃能力の死活的重要性 … 195 ／核戦略を支える情報網 … 196 ／戦術核の「ＮＡＴＯ」化 … 196 ／これからの核の世界 … 198 ／通常兵器における軍事力の比較 … 199 ／経済力をどう比較するか … 202 ／国際基軸通貨はドルであり続けるのか … 204 ／政治力をどう比較するか … 205 ／現代国際政治における第１基層―戦勝五大国（Ｐ５）… 206 ／現代国際政治における第２基層―先進民主主義国（Ｇ７）… 207 ／現時点で地球的規模の権力関係はどうなっているか … 209 ／「上海協力機構（ＳＣＯ）」をどう見るか … 214 ／インドをどう考えるか … 216

第8講　国際戦略情勢概観（2）
東アジアの地域情勢をどう見るか

東アジア地域の戦略概観 … 217／米中露三国志の展開 … 218／中露関係をどう見るか … 223／北朝鮮の核問題をどう見るか … 225／朝鮮半島をめぐる軍事情勢 … 230／台湾人のアイデンティティ問題をどう見るか … 231／台湾海峡をめぐる軍事情勢 … 234／台湾問題の平和的解決と「誤算」の危険 … 239／近代の「北方重視」から古来の「南方重視」へ … 240

第9講　国際社会の倫理的成熟（1）
啓蒙思想と国際法の登場

近代欧州の価値観とその普遍性を問う … 243／近代欧州諸国の精神的覚醒 … 245／「啓蒙思想」の登場 … 250／「国際法」の発展 … 253／15世紀および16世紀における東アジアの国際秩序 … 256／非キリスト教世界との接触 … 257

第10講　国際社会の倫理的成熟（2）
19世紀以後の倫理の退潮と再生

19世紀は「光の世紀」か … 262／「乱の時代」の始まりと国際倫理の退潮 … 264／「文明伝搬の使命」という傲慢 … 268／産業国家の登場—工業化による世界秩序の変貌 … 269／「国民」国家の登場—近代的「国民」の誕生とナショナリズム … 271／「殺すな」の思想—国際社会における法の復権 … 275／国際人道法の発展 … 276／正戦論の復活と集団安全保障体制の構築 … 277／啓蒙思想の展開—自由主義、社会主義、共産主義 … 279／民族自決の始まり—ウィルソン米大統領と東欧諸国

… 281　アジアおよびアフリカにおける植民地の解放―啓蒙主義の復讐 … 283　人権思想の国際化―啓蒙思想のさらなる展開 … 285　20世紀後半の独裁体制―共産党独裁と開発独裁 … 286　途上国側から見た人権問題 … 288　「人類愛」を主張したアジア、アフリカの偉人たち … 290　正当な勤労への報酬―自由貿易体制の確立 … 292　地球的規模の倫理社会を構想する … 294　現代国際社会の普遍的価値観とは何か … 297　普遍的価値観のうちの何が受け入れられていないのか … 302　人類史を書くことは可能か … 304

第Ⅲ部　国益を実現するための課題

第11講　守れる国益、守れない国益

日本は、一人では生きていけない … 308／日本は、自分だけで国民と国土を守れるか … 308／核の恫喝にどう対応するか … 309／自主核武装はなぜ難しいのか … 309／核戦略の核心―第2撃能力の確保 … 310／情報衛星網の運用 … 311／原子力の平和利用との関係 … 311／核不拡散体制離脱と政治的・経済的孤立 … 312／「ミサイル防衛」は完全か … 313／「お金がない」という現実―破綻した吉田ドクトリン … 313／米国の核抑止力は万全か … 315／核をめぐるドイツの苦悩 … 316／日独核政策の比較 … 322／通常兵力の世界―日本は独力で海や空が守れるか … 325／「海を取る」とはどういう意味か … 326／北西大西洋における海軍力の比較 … 327／現代海戦の実際と米海軍の実力 … 328／シーレーンの安全 … 330／日本は大陸勢力の着上陸侵攻を阻止できるか … 330／大陸勢が日本を侵攻すればどうなるか … 332／米陸軍の不在がもたらす戦略的脆弱性 … 334／国連安保理で決議を通すにはどうしたらよいか … 336／地球的規模での権力均衡を維持するにはど

第12講　日本の大戦略はどうあるべきか

大戦略の考え方 … 348／世界観を持とう―「21世紀の地球社会のヴィジョン」とは何か … 350／基本的倫理観や価値観の共有 … 353／日本の大戦略はどうあるべきか … 356／二国間関係を束ねても大戦略にはならない … 356／日米同盟に代替策はあるか（1）―国連は頼りになるか … 364／日米同盟に代替策はあるか（2）―「バランサー論」をどう考えるか … 365／日米同盟に代替策はあるか（3）―マルチラテラリズムをどう考えるか … 366

第13講　日米同盟をどう運用するか

同盟とは何か … 368／米国とはどういう国か … 369／米国の世界戦略 … 373／米国の海軍戦略（太平洋とインド洋）… 376／同盟運営の基本的考え方 … 378／沖縄に海兵隊の常駐は必要か … 382／どうして米国にとって沖縄が戦略的に重要なのか … 384／「沖縄の海兵隊は、日本のためにいるのではない」という議論をどう考えるか … 386

第14講　対等な日米関係を目指して

米国と対等になるとはどういうことか … 388／「平和を創造する国」

と「平和を享受するだけの国」… 390　現在の日米同盟は「甘えの構造」… 391　日本は瓶の中の小鬼か、在日米軍は瓶のふたか―米国の対日警戒感の消失 … 393　日本は基地を貸しているから対等なのか … 394　まず対米依存心を捨て、自分のことは自分でやる … 395　積極的平和主義への道（1）―湾岸戦争の衝撃と国連ＰＫＯへの参画 … 397　ＰＫＯ参加と武器使用権限問題 … 398　積極的平和主義への道（2）―第１次北朝鮮核危機とガイドライン法 … 399　積極的平和主義への道（3）―9.11同時多発テロの衝撃と海上自衛隊のインド洋派遣、陸上自衛隊のイラク派遣 … 400　積極的平和主義への道（4）―アデン湾での海賊対策 … 402　防衛費を切り続けて「対等」は難しい … 403　自分だけ守ってもらうという虫のいい話は続かない … 405　武器輸出政策をどうするか … 409　「盾と矛」の役割分担は見直さなくてよいのか―攻撃能力獲得の是非 … 414　「地球の果てまで米国に付き合うのか」という議論をどう考えるか … 419　恒久法の制定について … 422　日米同盟が対等な同盟になったらどうなるか … 423　新しい日米同盟と基地使用の目的 … 428

第15講　関与政策とは何か

関与政策とは何か … 430　関与とは強制ではなく説得である … 431　新興国に見られる主権の絶対性とナショナリズム … 431　近代日本の黎明期との比較 … 432　他の後発近代国家の場合―ドイツとロシア … 435　後発国家は、当初は先発国の作ったシステムに責任感を感じない … 436　関与政策は長期的には成功する … 437　関与政策の核心的論点―先進民主主義国の価値観は普遍的か … 440　日本の文明史的立ち位置―東西の結節点、近代と伝統の結節点 … 442　抵抗者の視点―東洋思想に欠けているもの … 443

第16講　対中・対露関与政策の論点

市民社会の成熟と中国およびロシア … 446／中国、ロシアと主権の実質的平等 … 448／中国に対する関与政策 … 450／過渡期における中国人の心理―主権の絶対性 … 451／過渡期の中国が直面する３つの問題 … 454／増大する国力とハイパー・ナショナリズムが突きつけるもの … 457／中国はどこまで大きくなるか … 459／Ｇ２の将来―米国が世界覇権を中国に譲ることがあり得るか … 461／ロシアは現状維持勢力ではないか … 463／資源大国としてのロシアの復権 … 464／ロシアは故郷の欧州に戻るか … 466／ロシアと市民社会 … 468／ユーラシア勢力圏を固めようとするロシア … 469／ロシア人から見た冷戦後の世界 … 469／アジア太平洋地域へのロシアの統合 … 471

■【補講】　近代欧州の覇権―その成立過程　475

■ 読書案内　483

■ 巻末資料　496